

2010年3月

図書館 まなびトーク

# 学人ニュース

図書館を利用して行った生涯学習の発表会

語り、深める

図書館 まなびトーク

千葉県立西部図書館では、2月26日(金)に21名のご参加をいただき、図書館まなびトークを開催しました。今回は岩淵梧郎さん、石橋勲さんのお二人が発表の部にご応募くださいました。

第1部「発表の部」では、岩淵さんが「ホーキングの「時間順序仮説」を読んで考えさせられるもの」のテーマで、石橋さんが「自分なりの図書館利用法」-新聞・雑誌を読む-」のテーマで発表してくださいました。発表の後、当館職員が「ワンポイント図書館活用ミニ講座」を行いました。(発表要旨は次ページ以降をご覧ください。)

第2部は「トークの部」として、発表者、参加者の皆様と図書館職員を交えての情報交換と図書館トークを行いました。発表を聞いての感想や図書館資料の利用方法について意見交換しました。(トークの内容は最終ページをご覧ください。)

昨年3月に、第1回目を開催してから、今回で5回目の開催となり、今までに合わせて10人も学人に発表をいただきました。そして利用者の皆様と図書館のコミュニケーションの活性化を模索することから始まったトークの部も、回を重ねるごとに参加者の皆様の積極的なトークに支えられ、ますます盛り上がってきています。この場を借りて御礼申し上げます。次回は国民読書年記念開催を企画しております。新たな学人の登場をお待ちしております。

## ~プログラム紹介~

<第1部 発表の部>

岩淵 梧郎さん「ホーキングの「時間順序仮説」  
読んで考えさせられるもの」

石橋 勲さん「自分なりの図書館利用法」  
-新聞・雑誌を読む-

~ 休憩 ~

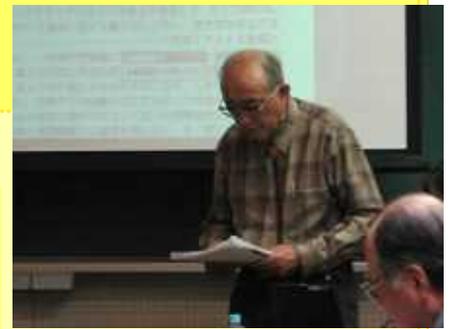
ワンポイント図書館活用 当館職員

「新聞・雑誌で調べる」

質疑応答

<第2部 トークの部>

情報交換と図書館トーク



## 参加者の声

(アンケートのご意見から)

皆さま、本よりいろいろと学ばれているようで大変参考になりました。定年後の時間の使い方に新しい目が開けたような感じです。次回のまなびトークにも参加させて頂きたいと思います。

(松戸市 64歳)

本日は参加させて頂き、ありがとうございました。(中略)今回の学習に参加させて頂き、もっと中身を読み解く努力を...。又、他のジャンルの本も手にし、楽しみにしながら、幅広く学習してゆきたいと思いました。

(松戸市 60歳)

岩淵さんのお話はむずかしかったです。(中略)科学・宗教・哲学の相関関係のこと、これほど体系的によく把握されていることに深く感銘致しました。石橋さんのお話も、図書館の利用・活用の姿勢に感心しました。『まなびトーク』は松戸市の友人のすすめで初めて参加しました。大いに刺戟となりました。ありがとうございました。

(我孫子市 73歳)

「図書館 まなびトーク」とは...図書館で学ぶ人たち(学人=まなびと)の学習体験の発表、交流(=トーク)の場として、また日常の生涯学習の場として図書館をもっと活用していただきたいという思いから名づけました。



## ホーキングの「時間順序仮説」を読んで考えさせられるもの

いわぶち ころう  
岩淵 梧郎

標記「時間順序仮説」は10年前に読書交遊会で一番最初に報告したのですが、それから派生的に図書館蔵書を中心に分子生物学、脳科学、哲学など読みあさりましたが、今回標題と哲学の歴史的経過とに関連させ私的考察の一端を僭越ながら語らせてもらいます。

標題は1990年2月と1991年6月ホーキング博士が来日した時講演されたものようです。先ず出出しはこのような件(くだり)から始まります。「全てが予めそのように運命づけられているのでしょうか」運命が定まっている説は、全知全能の神が時間の外にいて、この宇宙を創造したのだから神は何が起こるかが全て知っているからであると、されている。それでは私達の自由意志というものは意味がなくなる。意味がないとすれば、自分の責任をとる必要がなくなる。ある人が殺人を犯すよう運命づけられているとすると、その人は罪にならず罰せられないことになる。と、彼自身の哲学的趣きで決定論批判から始まる。

勿論ホーキングに於いての決定論は神でなく、科学基盤に基づいて論じていて、宇宙進化のシナリオが決定できるとされる「力の統一論」にあります。重力・弱い力・電磁力・強い力とがあり、現在電磁力と弱い力は電磁統一論として実験確認されている。これと強い力との大統一理論も確立している。しかし重力との究極の統一論は具体的な理論として出来ていない。その理由は一般相対性理論と量子論の「仲の悪さ」で、他の力は量子論で記述できるのに、重力を量子論で記述する「量子重力理論」はまだ未完であるからとされる。

以下この著書の大雑把な内容を記述させていただきます。と、

1. 決定論批判: ホーキング曰く、いずれ「力の統一論」は、ここ半世紀待たずに完成するだろう。しかし宇宙の些細な部分は基本法則の中にある量子論は不確定性が起因するもので、宇宙の未来総て決定付けられるとは考えにくい。又人間の振る舞いも脳内の多彩な粒子の関与の方程式が解けない。たとえ解けたとしても、予言したという行為が系を攪乱し決定論にならない。

2. 物理法則は過去への旅を許さない: 過去への旅の方法はブラックホールの中に入ることである。一般相対性理論方程式の解にはブラックホールに入ったのち、どこか別なところでホワイトホールから出てくる解がある。ホワイトホールとは時間の反転したもので過去に出られる。しかしながら過去に旅しようとしたときに、何が起こるかという不確定性原理の効果で大量の放射能が発生し、それによって時空が湾曲して行けなくなるか、時空にビッグバンやビッグクラッシュのような特異点が発生して、そこで終わる。か、いずれかで、「時間順序保護監督官」なるものが出て過去へ旅する事を防いでおり、歴史家が安心できるようになっている。

3. 宇宙は虚数時間の中で始まったかもしれない: 一般相対性理論で宇宙の起源を辿ると実時間の方向では物質やエネルギーが、時空を丸めようとする事で必然的に時空の終焉である特異点の存在に行きあたり、そこで物理学の方程式が成り立たなくなる。従って何が起こるかわからなくなる。しかし虚数時間の方向は、実時間に直行するので、虚数時間の方向が、空間内での移動に対応する三つの方向と同じような性

質を持つ。すると宇宙にある物質によって作られた時空の曲がりによって三つの空間方向と虚数時間が丸まった方向で出会うことになる。三つの空間方向と虚数時間とは境界も端もない、丸く閉じた時空をなし、それに始まりや終わりと呼べる点はどこにもない。

1・2項からは予め決定されている事などや、過去に戻りやり直すなど不可能である事が科学的に証明されている。自己の自由意志にて現実を直視し未来を切り開いて行くのみであると示唆が伺える。

3項の虚数時間に関して、宇宙物理学者のカール・セーガンは「これは神に就いての話である。ひょっとすると神不在の話かもしれない」。かつ「空間的に果てしなく、時間の始まりもなく終わりもなく創造主の出番のない宇宙である」。との賞賛は有名である。

キリスト信仰者に於けるホーキングの評価であります。1~3項を見ても正に神不在を証明するがごときインパクトを与えたみたいである。1670年代ガリレオの地動説以来、ビッグバン説によって絶対の神の一撃による創造の神として出番があり面目が保たれたところであったが、このホーキング説にはかなりの反駁が伺える。天文学者でありキリスト信者であるヒュー・ロス博士は、熱いビッグバンにて膨張する宇宙の「比エントロピー」の10億が70%の水素・24%のヘリウム・6%の重元素を生む事で神秘的な美しい秩序を持った宇宙が出来たので、「比エントロピー」がこれより大きくても小さくても、宇宙の歴史において星も惑星も決して存在しなかった。これは聖書に記述せし、神による天地創造である。ホーキングは「人間原理」を拒絶している。よく宗教者を「ギャップの神」と罵るが、理解しえない部分を虚数時間で「ギャップの自然」のようなものに任せている。と、彼の著書「宇宙の起源」に記している。

しかし量子論には虚数の出現が多く見られるようになり、シュレディンガーの方程式に必然的に虚数・複素数含まれ、小林・益川の理論「CP対象性の破れ」にも用いられ実験で証明されるなど神の領域が時代の科学の進歩によって狭められて来ていることは事実である。こうした成り行きは、哲学も同じ運命を辿っている向きがあります。

次は大雑把な図式で哲学に対する客観科学化による侵食の様相を見てみると、歴史上から見て哲学は何といっても古代BC348~322のアリストテレスの「形而上学」を筆頭として、倫理学・論理学が時代の出発点と考えられます。そして今ではとても哲学とは考えられないような政治学・経済学・宇宙学・気象学・自然学・動物学・博物誌・詩学等非常に多岐に渡っていて、これらのタイトルの中には現在でも一つのカテゴリとして成立している学問がたくさん伺えます。そして形而上学における存在論での神は、大変精緻に組立てられた、抽象的な神と言う全知全能な様態論でありました。

中世に入って、これが神学と密接に結び付き、スコラ哲学を誕生します。しかしこうしたアリストテレスの知的で巨大な学問も、天体の運行に誤った記述をしており、これが有名なガリレオ・ガリレイによる地動説の客観科学化による侵蝕の始まりとなります。この世紀以降科学は思弁を捨て、実験・数学による実証によって事実を見出すようになり、又哲学は客観性の保証を捨て内観内省を主なる武器とするよう方向付け進んだ。

近世に入って、神中心主義から人間中心主義的世界観へと転換し神も自然神学(汎神論)へと変遷していき、合理主義は、認識とは理性が考え出したものだけが真の認識とした。それに対し経験主義は経験から得る印象を精神が受動的に受ける事で対象を認識するとして対立した。こうした哲学の方法論は結局のところ頭の中でいろいろ概念を捏ね繰り返す思弁に過ぎず。科学の発達は感覚器官を通じ、脳内で認識されるメカニズムの解明が進みかなりの部分が侵蝕された。その結果心理学は認識哲学の一部であったが思弁を排し実験心理学へと独立しました。

現代に入って、合理主義と経験主義の対立を調停したカント、主格を合一したヘーゲルなどの本質に拘って現実を目をそらしていることから、現実に存在しているものに対し思考した現代哲学を代表する実存主義へと移り変わった。こうした存在論も、客観的肉体的人間存在については生理学・分子生物学・生命科学によって侵蝕され、もっぱら20世紀に残された哲学領域は主観的に存在すなわち自己という存在とか、自己意識の世界について語る無神論的実存主義と現象学ということになります。

以上哲学に関しては、私は若輩者にて客観科学化による侵蝕のみ強調した形で、ご異存ある方もおられるでないかと思いますが、ご容赦を願うと致して、この哲学には、歴史的変遷から別な角度で感じることは、西洋哲学でありながら、中世に於けるキリストの絶対の神中心から近世においては自然内在の神(汎神論)と共に人間中心主義へ変遷している。かつ現代に入ってショ・ペンハウア・に至っては、仏教の諦念思想を表徴し、ニ・チェは私的に見て諦念観念に似てもいつかぬ永遠回帰思想を提唱、フッサールの現象

学と共にハイデガーの存在論へと影響し、ハイデガーは遂に自己の存在の無根拠さから「無」の哲学に行き着く。この「無」の哲学に関連して、日本の「偶然性の哲学」を想起した九鬼周造はハイデガーと深く親交があり、こうした背景から西洋哲学は自然内在の神から仏教的「無」の哲学へと東洋ナイズされていく側面が伺えます。ハイデガーと同年代に京都帝大教授の西田幾多郎がありますが、彼の「無の自覚的限定」は私的感触になりますが、ハイデガーと共通している側面が伺えます。結局現在では、宇宙の根源は**根拠=無**で時間も空間も未分化、そして自己の根源も**根拠=無**で「私」は「私」であるか「世界」であるかは未分化である と根源的に宇宙論も哲学も**無**に行き着くが実感です。後に九鬼周造は西田の京都学派に招聘されました。

21世紀に入ってから哲学とは「地球循環型自然環境」に於ける人間の主観的存在意義と現象学に見られる思考と認識の原理でないかと思えます。この存在の意義についての留意は、人間以外の動物はその種の成長と保存の原理に従って、食欲・性欲・行動欲等その種の遺伝によって制約されて、その種のバランスが維持しているものと思えます。しかし人間の欲望は大雑把に見てこれにプラス知りたい欲望(知的欲)・支配欲・その他諸欲が考えられるが、問題なのはその欲に対する制約は、一切人間の思考と認識に一存されているという事です。所詮人間は他の動植物のお蔭で摂取し生きるしかなく、こうした地球循環型自然環境の中の人間であって、決して「人間原理」の地球でないということです。

こうした事を留意し思考した認識による人間の主観的存在意義を理性にして欲望の制約を図るべきことになる筈である。又この世紀に至っては科学も益々進歩し、欲望と相関する経済もそれに伴って複雑さを増し、尚々不確定性の要因がその方程式の解が求め難くなるでしょうが、何れこれもこうした人間の存在意義で自己制約していくしかないと思えます。

これは現代に於ける哲学のあるべき課題の問題を提起したに過ぎません。具体的に提示するとなれば、過去の哲人が矛盾に向かって格闘苦闘したように広範な知識と思考と認識の冴えた哲人にお出ましして貰うしかありません。

幾ら科学が進歩したとて、人間の主観的問題は、客観科学化が解決するもので無く、人間の主観自体での思考と認識にあるだと結論してこの学びトクの発表を終わらせて頂きます。



## “自分なりの図書館利用法” - 新聞・雑誌を読む -

いしばし いさお  
石橋 勲

西部図書館の豊富な新聞・雑誌など、溢れる情報の中から、必要なものを的確に選択し、読みこなすことは意外にむづかしい。2010年のキーワード(経済)は？

経済・金融の世界ではグローバル化が進み、市場(マーケット)の連動性を高めています。経済・金融情報と上手に付き合うためには理論だけではなく、実際にさまざまなテーマを巡る情報が具体的にどのように報道されているのかに留意する必要があります。

西部図書館の豊富な新聞・雑誌など溢れる情報の中から、それらを鵜呑みにすることなく、必要なものを的確に選択し、又捨象し、読みこなすことによりそのスキルは向上するものと考えられます。

各マーケットは短期的には不規則極りない動きをしたとしても、中・長期的には決して実体経済(経済の基礎的条件・ファンダメンタルズ)の動きから大きく乖離することはありません。

われわれは、経済・金融の動きが、今どの方向に動いているのか、なぜその方向に動いているのか、これからどの方向に動くかと予想されるか、の問題意識を持つことが大切です。

新聞・雑誌等の身近かなソースからの第一次情報は今

後のシナリオ想定に必要な不可欠なものであると思われる。

内容(予定)

- 新聞報道は常に正しいか。
- 解説記事は的確か。
- エコノミストの見方は信頼できるか。
- 新聞編集を参考にする。

トップ記事かベタ記事か、その表現・ニュアンスは、各種統計を客観的にみる。

新聞・雑誌・その他情報に基づき、分析を踏まえ、その理論的根拠と整合性を保ちつつ自らのシナリオを描き、検証し、反省する。

2010年のキーワードは?

その他



## ～ワンポイント図書館活用ミニ講座～ 「新聞・雑誌で調べる」 入門編

新聞・雑誌を探るとき、新聞・雑誌記事の記事を調べるときに便利なホームページや図書館所蔵の参考図書、図書館で利用できるデータベースのご紹介です。お取り寄せやコピーなど、図書館利用時のポイントもご案内しています。詳しくは資料リスト「新聞・雑誌で調べる～入門編～」をご覧ください。

### 1. どんな新聞・雑誌が発行されているか調べるには

参考図書：『雑誌新聞総かたろぐ 2009年版』(西部参考 0275-8-09)

### 2. 図書館にある新聞・雑誌を調べるには(所蔵検索)

HP：新聞・雑誌総合目録検索(千葉県立図書館HP内)・HP：国立国会図書館 NDL-OPAC ほか

### 3. 新聞記事を探すには(記事検索)

HP：千葉県関係新聞・雑誌記事索引検索(千葉県立図書館HP内)

データベース：朝日新聞「聞蔵」・日経新聞「日経テレコン21」

参考図書：『明治ニュース事典』(西部参考 2106-42-1~9)・『大正ニュース事典』(西部参考 2106-60-1~8)・『昭和ニュース事典』(西部参考 2107-125-1~8) ほか

### 4. 雑誌記事を探すには(記事検索)

HP：千葉県歴史関係雑誌記事索引検索(千葉県立図書館HP内)

HP：国立国会図書館 NDL-OPAC「雑誌記事索引」

参考図書：『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』(西部参考 0275-15) ほか



## 情報交換と図書館トーク

自分は新聞、雑誌報道に間違いはないと理解してきた。

新聞にも間違いもあるということで、それを見分けるのは一人一人の読み方による。情報をどう扱うかは読む人本人の勝手である。基礎的なものの考え方、見方をもっていれば新聞に惑わされることがないのでは。

新聞のコピーは、場合によって著作権の侵害になるとのことだが、出典を明らかにした場合でもそうなのか。

文化庁によると、会議の席等で著作権のあるものを無断でコピーして配ることは、著作権法違反であるといわれています。(図書館)

岩淵さんの発表について、宇宙とか、量子論という見地から西方浄土はどのように扱うのかと考へた。別の宇宙はあるのだろうか。

ブラックホールから抜け出すと別の宇宙があるという話はあるが、実際、宇宙はどこが境なのか分からない。膨張しているというが、果たしてそのものの境はどこなのか、科学的に解決できない。ある可能性はある、ということではないか。自分にはわからない。

釈迦が無といひ、かたや量子論も無といひ。量子論の無は、無から有を生じているわけだから、やっぱり有であると自分は思う。

私がある、父・母がある、父母の前は、とずっと突き詰めていくと、最終的には宇宙からできたということになる。

だから、何からできたのかという話になると、今分っていることは有から有を生んでいるんだろうなあと。すなわち、無を生み出す場というものがあったと思う。それは有だと。

ワンポイント図書館活用で、いい資料を作ってもらったが、年配者が多いのでスライドを使うときは字を大きく拡大してほしい。

## 学人紹介

2009年3月18日開催

湯沢 幾男さん

「日本の風土を考える  
～二つの風土論から  
学んだこと」

阿部 幸次さん

「樺太アイヌの歴史と  
山辺安之助の『あいぬ物語』」

2009年5月22日開催

細井 滋さん

「良寛和尚の足跡」  
岡戸 大国さん  
「無害な核エネルギーと  
中央アジアの資源大国  
カザフスタンの将来展望」

2009年7月24日開催

末満 宗治さん

「無いものを図書館で探す」  
三沢 博志さん  
「調べることはおもしろい・・・  
～自然誌関係文献目録編集  
の経験から～」

2009年10月30日開催

佐久間 直次さん

「豊富な史料を利用して学習  
～天文と古代人の関わり～」

中條 藏實さん

「図書館を書斎に!  
読書会100回余と  
ポストモダン」

図書館 まなびトーク 学人(まなびと) ニュース 平成22年3月16日発行  
千葉県立西部図書館編集 〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀 657-7 TEL 047-385-4133  
<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>